

**よみ**  
BI WEEKLY  
WWW.YOMITIME.COM  
**タイム**

NEW YORK  
EVENT JOURNAL  
**YOMITIME**  
2019年10月18日号  
Vol.360



新宿区立小泉八雲記念公園で行われた除幕式に参加した関係者たちと野田氏（左端）

「小泉八雲」がテーマ  
野田正明4つ目の彫刻  
新宿区八雲公園に設置

ニューヨーク市在住の彫刻家・野田正明による大型ステンレス彫刻「無限の未来—小泉八雲終焉の地—（高さ2.8メートル）」が、「新宿区・レフカダ市 友好提携30周年記念」として10月21日、東京都新宿区の小泉八雲記念公園（大久保1-7）に設置された。作品は八雲の胸像をハートに織り込んだデザイン。新宿区とレフカダ市の友好提携は、ギリシヤのレフカダ島で生まれた小泉八雲（ラファディオ・ハーン）が新宿区で生涯を終えたことに由来する。

モニュメント除幕式は吉住健一新宿区長、小泉八雲曾孫の小泉凡・祥子夫妻、ギリシヤ大使館からコンスタンティン・カキシス大使夫妻、ギリシヤのレフカダ市からハラランボス・カロス市長夫妻、同副市長の参加で行われた。

野田は長年、小泉八雲ゆかりのステンレス彫刻作品を手がけてきた。2009年には最初の作品「ラファディオ・ハーンの開かれた精神（高さ4メートル）」が、アテナのギリシヤ・アメリカン大学に永久設置された。翌年には同大学の姉妹版となる同名彫刻（高さ2.7メートル）が、島根県松江市宍道湖畔に設置された。

3つ目の作品「ラファディオ・ハーンと開かれた精神のオデッセイア（高さ2.2メートル）」は14年、ハーンの生地ギリシヤのレフカダにあるレフカス文化センターに、ハーン没後110周年記念として設置された。

今回の新宿区小泉八雲記念公園の作品で4つ目となり、野田の八雲彫刻シリーズの最終章となる。

小泉八雲来米150年記念  
講演会と墨書パフォーマンス  
日本人の精神文化を世界へ



小泉凡氏

小泉八雲（ラファディオ・ハーン）来米150年記念イベントが、10月23日（水）、日本クラブで開催される。

八雲は、「知られぬ日本の面影」「心怪談」「日本一ひとの解明」など十数冊の著作で、日本人の精神文化を世界に伝えた。その八雲は、今から150年前の1869年、19歳で

八雲会との共催。八雲の曾孫・小泉凡氏の講演会「ラファディオ・ハーンを現代に生かす」と、書家・墨象アーティスト、七澤菜波の墨書パフォーマンス「逢魔—小泉八雲の精神と書が出会う—」の二本立てイベントだ。

八雲は、「知られぬ日本の面影」「心怪談」「日本一ひとの解明」など十数冊の著作で、日本人の精神文化を世界に伝えた。その八雲は、今から150年前の1869年、19歳で

小泉凡氏は、「小泉八雲という、オープンマインドで多面性を持つ人物を、単なる文学の研究対象という価値観から解放し、社会に生かすことは、子孫として大きな意味のあることだと考えています」と話す。

講演会の後は、墨書パフォーマンス。島根県松江市出身のギタリスト、山本恭司の演奏に合わせ、書道家の七澤が、昼と夜・現世とあの世の狭間、人間が魔物に出会う、「逢魔」の世界を描き出す。

10月23日（水）6:30～8:00pm  
会場：日本クラブ：145 W. 57th St.  
一般\$15、日本クラブ会員\$10（ドリンク付）  
申込み、問合せ：日本クラブ（本多さん）  
TEL: 212-581-2223  
yhonda@nipponclub.org  
www.nipponclub.org